

伊豆東部火山群の火山活動解説資料（平成 28 年 1 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図 1）

大原及び大崎遠望カメラによる観測では、噴煙などの表面現象は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図 2、図 3 - ）

23 日に静岡県伊豆地方および伊豆半島東方沖を震源とする震度 1 以上の地震が 4 回発生しました。このうち、01 時 33 分（マグニチュード¹⁾ (M)3.7) と 05 時 34 分（M3.3）の地震により、熱海市網代で最大震度 3 を観測しました。また、27 日 10 時 12 分に伊豆半島東方沖を震源とする M2.7 の地震が発生し、熱海市網代で最大震度 2 を観測しました。これらの地震の前後で、体に感じない程度の微小な地震が一時的に増加しました。また、3 日にも微小な地震の増加がみられました。これらの地震の前後で火山活動を示す地殻変動はみられていません。その他の期間は、概ね静穏に経過しました。

火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 3 - ~ 、図 4）

GNSS²⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

東伊豆奈良本に設置している体積ひずみ計³⁾や、猪山^{ししやま}に設置している傾斜計⁴⁾による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変化は認められません。

1) この値は暫定値で、後日変更することがあります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

3) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。

4) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等による変化を観測します。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

今回の火山活動解説資料（平成 28 年 2 月分）は平成 28 年 3 月 8 日に発表する予定です。

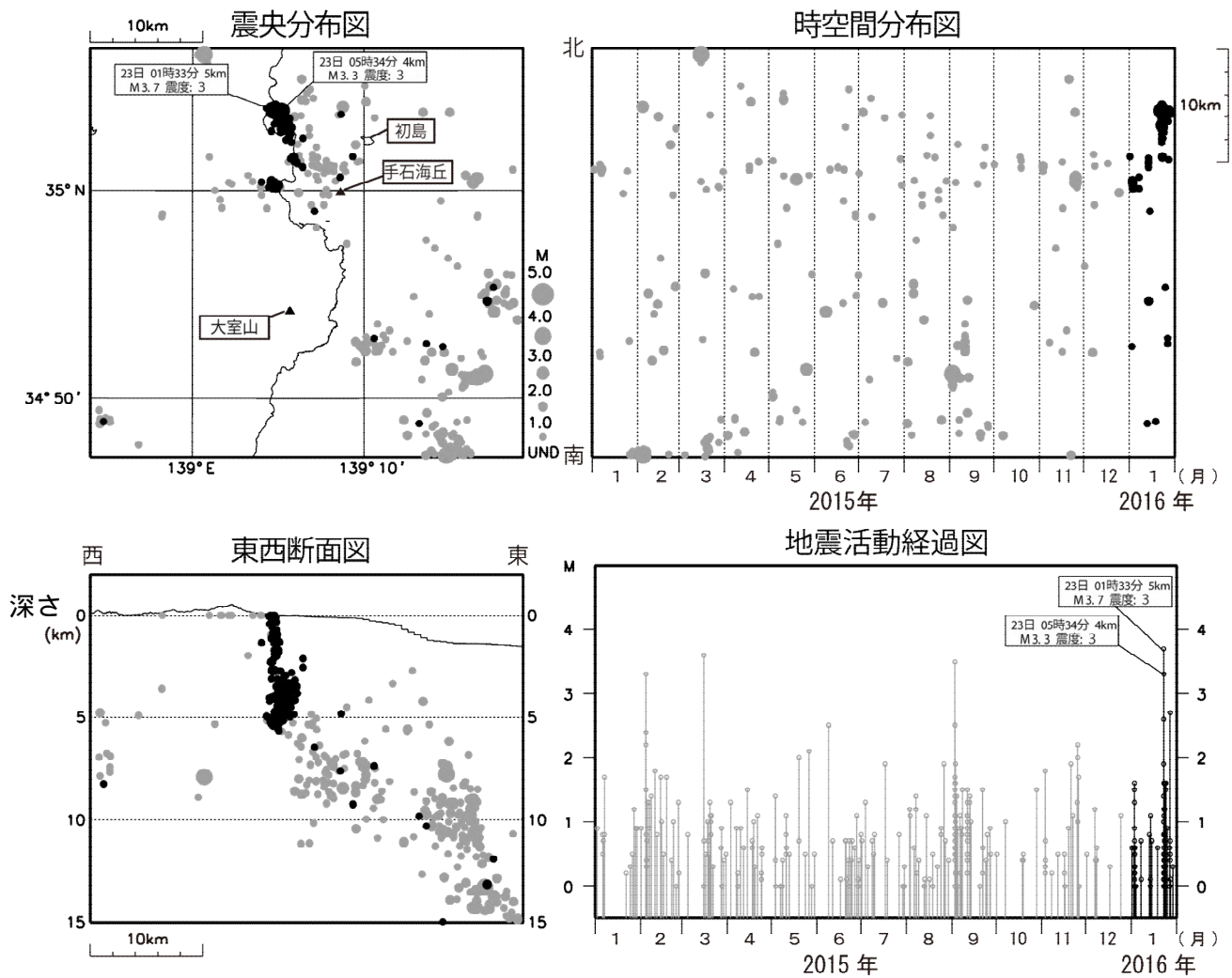
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 伊豆東部火山群 伊東市沖の状況

（左図：1月22日 大原遠望カメラ、右図：1月22日 大崎遠望カメラによる）



●：2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日 ●：2016 年 1 月 1 日～1 月 31 日

図 2 伊豆東部火山群 広域地震観測網による震源分布図（2015 年 1 月 1 日～2016 年 1 月 31 日）

- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

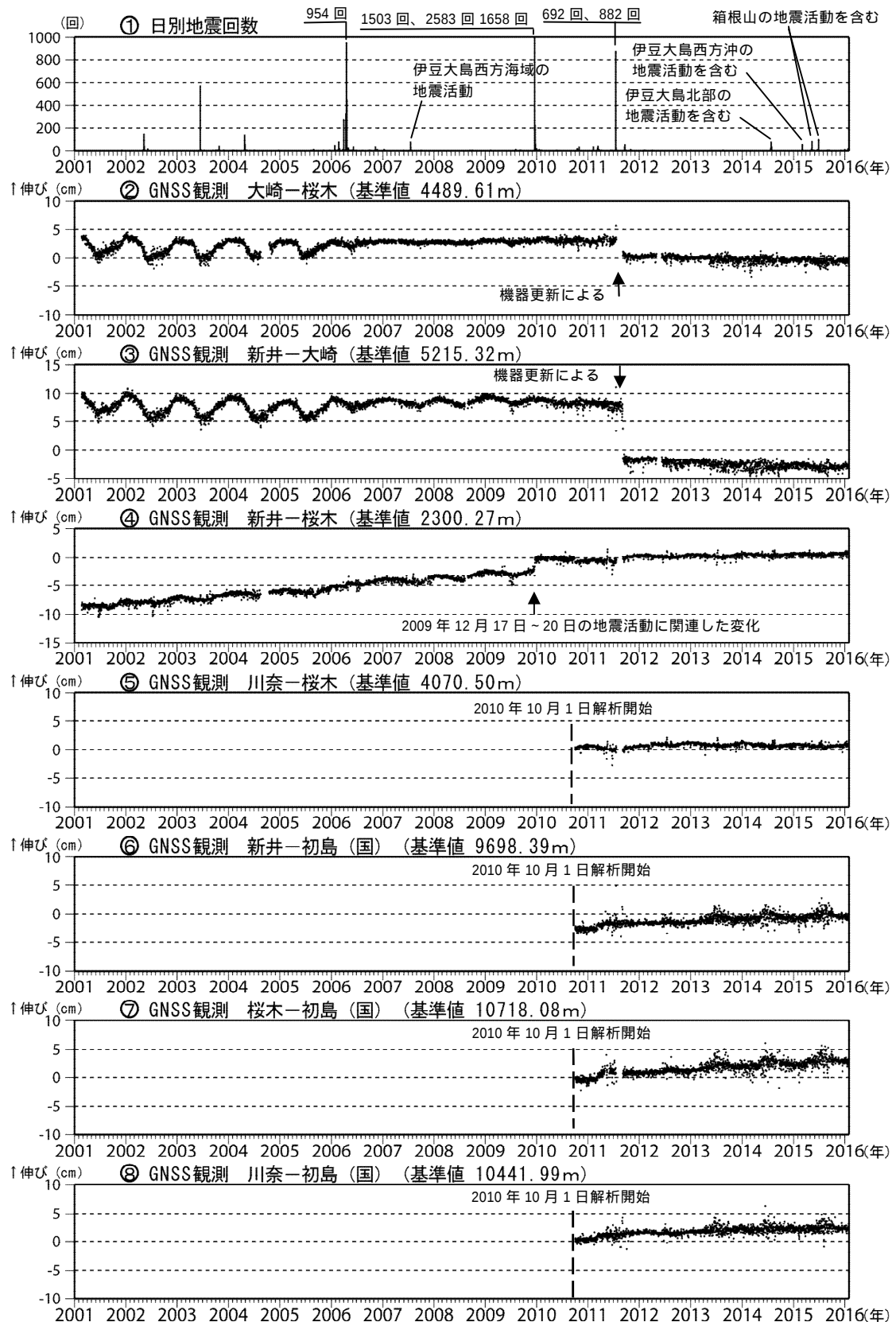


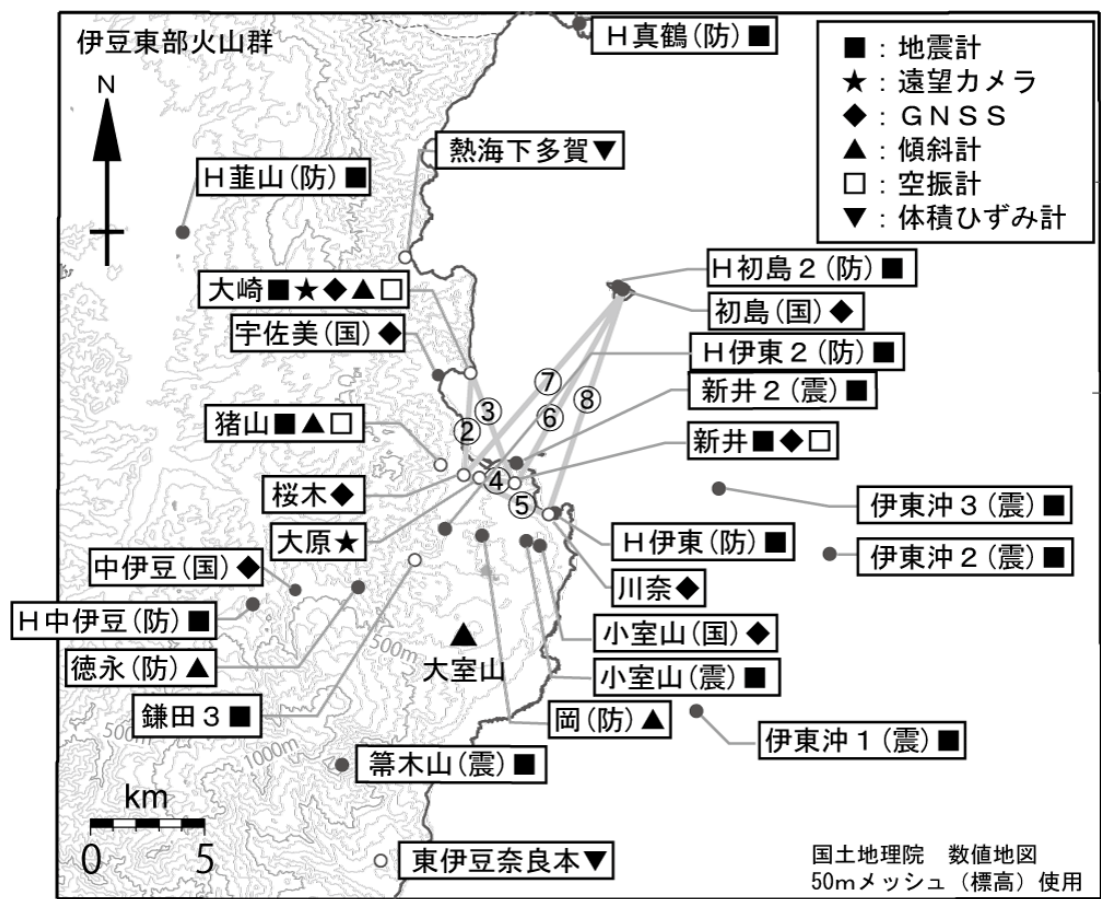
図3 伊豆東部火山群 火山活動経過図（2001年1月1日～2016年1月31日）

鎌田3地震観測点による日別地震回数（2012年7月23日までは鎌田2地震観測点による）

～：GNSS連続観測による基線長変化。観測開始は2001年4月。図4のGNSS基線～に対応。

（国）：国土地理院

- ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・基線長変化に見られる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。
- ・グラフの空白部分は欠測を示します。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所

図 4 伊豆東部火山群 観測点配置図

・ 図中の GNSS 基線 ~ は図 3 の ~ に対応しています。